

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第6号】2012年3月23日発行

【立命館・遠野拠点後方支援プロジェクト】
レポート 後方支援スタッフ派遣
第3便・活動中の学生たちが
雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載

後方支援スタッフ第3便がボランティア活動を行った岩手県遠野市での「三陸文化復興プロジェクト」が、雑誌ダ・ヴィンチ4月号(3/6発売号)で紹介されています。

被災した小中学校の図書館に本を届ける活動を展開中の三陸文化復興プロジェクト。雑誌ダ・ヴィンチがこの活動を取材されている当日、ちょうどボランティアに参加した立命館の学生たちと、陸前高田市の中学校の献本式に同行させていただいた学生たちが、記事内で取り組みを紹介する写真に登場しています。

献本ボランティア活動に真摯に取り組む学生たちや、献本に向った中学校で、中学生たちと記念写真を撮る学生たちの様子がご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

雑誌ダ・ヴィンチ4月号表紙



紙面の様子を少しだけご紹介いたします



【立命館学園広報】
ユニタース2012年3月号は
復興支援特集です

立命館の教職員を対象に発行される「立命館学園広報」ユニタースの2012年3月号には、特集「考えてみよう、私たちにできること」が掲載されています。東日本大震災から1年をむかえ、これまでの立命館の取り組みを、参加した方の声とたくさんの写真で紹介しています。

復興支援に関わった教職員からは、後方支援スタッフ第3便を引率した図書館サービス課の石井さん、災害復興支援室事務局の山口洋典 共通教育推進機構准教授(サービラーニングセンターBK副センター長)のコメントも掲載されています。

また、「教育・研究・職場 最前線!」コーナーでは、文部科学省「復興教育支援事業」に採択されたスポーツ健康科学部の大船渡市立中学校での取り組みを行っている家光素行准教授が紹介されています。

紙面の様子はこちら



【立命館・遠野拠点後方支援プロジェクト】
後方支援スタッフ派遣第6便
3/22(木)~3/27(火)

今年度最後となる後方支援スタッフ第6便は、3/22(木)夜に京都を出発しました。第6便の現地レポート、これまでの活動の様子は、災害復興支援室 facebook をご覧ください。
<http://www.facebook.com/fukkoR>

立命館大学社会システム研究所
3/22 学術公開フォーラム
パネル展示と東北物産販売同時開催

3/22(木)にBKCCローム記念館にて、学術公開フォーラム「震災からの復興とまちづくり - 陸前高田の現状を踏まえ、何ができるか、必要か - 」が開催されました。フォーラムには学生、市民の方々およそ60名が参加されました。



このフォーラムに先立って、会場ロビーでは東北地域の物産展示販売会と、学内の復興支援に関わるパネル展示が実施され、陸前高田市や気仙沼で事業の復興に向けて奮闘されている生産者によるしいたげや和菓子、海藻類やお米等の物産や、関連書籍が展示販売され、フォーラム参加者や、お昼休み中の職員が多く訪問しました。



立命館中学・高等学校
3/13 震災復興支援プロジェクト「Warm Heart」
報告集会開催



立命館中学校・高等学校では、東日本大震災を受けて、これまでさまざまな支援につながる活動が行われてきました。そして震災から1年、「今、私たちにできること」を改めて考える機会とする講演会およびメッセージを届ける集会を中高の生徒会・学校が協力して開催されました。

第1部では宮城県石巻市雄勝町で震災復興支援活動に取り組んでおられる石花貴氏が、「感じて学ぶ 震災から今までの活動を通じて」と題して講演。何かをやりたいたいという思いを行動に移すことの重要性を語られました。

第2部では立命館中学・高等学校での1年間の取り組み報告が行われ、活動に参加した方々のそれぞれの思いが発表されました。また、保護者を代表して木村明祐氏による現地支援活動の報告も行われました。

そして第3部では、参加者が震災地の子どもたちに向けたそれぞれの思いをカードに書き、ハート型をしたメッセージボードが作成されました。集会には、生徒、教職員、保護者、一般の方を含め、約350名が参加。メッセージボードは、今後、春休みに石巻市を訪問する立命館中学・高等学校の生徒の手で、震災地へ届けられる予定です。

詳細は学園HPや立命館中学・高等学校のHPでも紹介されています。ご覧ください。

<私たちの提案>進捗レポート
宮城県多賀城市訪問
政策科学部 桜井政成准教授

東日本大震災復興のための「私たちの提案 - 教職員の取り組み - 」第1次および第2次採択プログラムのひとつである。政策科学部 桜井政成准教授「くらしやすいまち」多賀城市プロジェクトの取り組みについてレポートが届きましたので紹介します。

3/13-15の日程で教員・院生・学生、総勢12名が参加し、宮城県多賀城市で支援活動と調査を行いました。3/14には、多賀城市の多賀城公園野球場仮設住宅を訪問し、京都のお茶とお菓子でのサロンを開催。前日から、学生達が全戸にチラシを配布し、当日は大盛況で、40人ほどの方が参加されました。また、子どもとお菓子作りワークショップも開催され、充実した支援活動ができました。

その様子は桜井先生の研究室HPで紹介されています。
<http://sakunary.blog134.fc2.com/blog-entry-98.html>



4月の立命館土曜講座は
震災関連特集です。

当時の学長であった故末川博名誉総長の提起により、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指して設けられた土曜講座。1946年3月31日の第1回講座から3009回目をむかえる4月は「3.11後 - 大学から日本の未来に向けて」というテーマのもと、東日本大震災に関する講座が開催されます。

初回の4/7は災害復興支援室長の服部健二副理事長にご挨拶をいただき、その後、災害復興支援室山口洋典先生に学生ボランティアの観点からお話いただけます。

詳細につきましては衣笠総合研究機構土曜講座HPでご確認いただけます。また震災HPでもご紹介する予定です。

ぜひご参加、ご聴講ください。

2012年4月 土曜講座のご案内

- 4/7(第3009回) ご紹介
学校法人立命館副理事長/
災害復興支援室長 服部健二教授
立命館の復興支援活動
- 災害と学生ボランティアの1年
立命館大学サービラーニング副センター長
山口洋典准教授
- 4/14(第3010回)
成長から適応への転換
- 日本経済が失った40年
立命館大学国際関係学部 高橋伸彰教授
- 4/21(第3011回)
歴史的視点から見た震災後の日本
国際日本文化研究センター所長 猪木武徳氏
- 4/28(第3012回)
今後の地震防災と京都
立命館グローバルイノベーション研究機構
土岐憲三教授

編集後記

災害復興支援室で作成したピブス。学生達の活動、教職員による活動、支援室の活動等がひろがり、いろいろなどところで見かけるようになりました。それが意外と目立ち、他の団体と一緒に活動する場合でもひと目でわかるんです。当初はRitsカラーで探していたのですが、大急ぎだったもので、すぐに納品いただける赤で作成することになりました。それがよかったのかもしれませんが？

立命館大学災害復興支援室瓦版【第6号】
発行人・編集 立命館災害復興支援室
075-813-8130 (総合企画課内)
メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp

これからの主な取り組み

3/27日韓フォーラム『KOREA NEXT, JAPAN NEXT』開催
内閣官房知的財産戦略推進事務局による「知的財産推進計画2011」のクールジャパン戦略の一環として、クールジャパン及び海外からの震災復興への支援に対する謝意と日本の復興を発信するため、立命館大学とAPUが韓国を担当し、日本とアジア・オセアニアの大学連携による風評被害対策シンポジウムが韓国・延世大学新村キャンパスにて開催。立命館大学特別招聘教授藪中三十二氏や延世大学社会科学部政治外交学教授キム・キジュン氏による基調講演が行われる他、日本紹介を行うイベントや立命館大学、APU、延世大学学生のワークショップも開催。

3/29 原子力と生存学研究会特別企画「震災・大学・放射能～福島大学教員をお招きして」
立命館大学人間科学研究センターと生存学研究会の共同主催で、福島第一原発事故後の拡散した放射能に対して福島大学・教員・市民はどのように対応したのか、現在の問題点は何か、その実情や大学の危機管理のあり方など、私たちが学ぶべきことを福島大学原発災害支援フォーラム(FGF)のメンバーによりお話しいただきます。15:00 - 衣笠キャンパス創思館303・304号室
<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。